

それは、価値観変わったかな、誰も取りこぼさへんみ

たいな、そういうの

語り手 佐々木 春菜（高校十四期生 グローバル教養学部）

聞き手 浅見 陽香

*

学部選択と大学生活

―色々学部があると思うんですけど、その中でなんでグローバル教養を選ばれたんですか？

理由は二つあって、まず一番大きかったのが、高校時代に留学に行つて英語を勉強できたこと。だから、大学では英語を勉強するんじゃなくて、英語を使って授業を受けたいと思ってたんよな。国際関係学部と迷ったけど、自分は国と国をつなげたいとか、日本と海外をつなぐ架け橋になりたいと思つてて。でも、具体的に何を勉強したいのかまではわからへんくて。教養学は、英語を使って文系理系隔てなく学べるからすごく惹かれた。二点目がオーストラリアに留学できること。日本の大学とオーストラリアの大学を四年間通える。

―そうなんですね。

そう、だから、普通の学生やつたら立命行つて立命館大学の学位しかもらえへんけど、グローバル教養は立命とオーストラリア国立大学、つていう世界でもトップレベルなところを卒業できるから、それがいいなと思つて選んだ。

―高校の留学はどちらに行かれたんですか？

留学はアメリカのインディアナ州に、一年間行つてた。

―それが（グローバル教養）学部に行く大きなきっかけになったんですか？

そうやなあ。元々、国際関係の学部に行きたかったから。

―私もです。二つを比べた結果、グローバル教養の方が自分に合つてたんですか？

うん。最後までほんまに悩んでん。

―なるほど、では学部について詳しくお話を聞きたいです。

勉強内容？

―はい。

オッケー。立命の授業は、哲学とか、プログラミング、ゲーム作ったり、あとは脳科学とか。すきなやつ何でもとれんねん。

―いろんな種類があるんですね。

そうそう。だから例えば、浅見さんがゲーム作るの好きやつたら、ゲームの授業も取れるし、それが全部英語で行われる。基本的に、いろんな好きなやつとつてた。

―大学四年生って今は何されてるんですか？

大学四年生は、主に研究みたいなのしてる。オーストラリアの大学のと立命のやつ、どっちもあって、オーストラリアは、授業が国際関係学寄りやねん。だから、その研究をしているのと、立命やつたら教育とかしてるかな。

―今授業以外で取り組んでる活動とかってあるんですか？

取り組んでた、でもいい？

―はい。

学部生徒会に取り組んでた。グローバル教養学部にも生徒会があつて、ここも立守の生徒会つてあるやん。そんな感じで、学部の生徒会があつ

て、うちの学部は二〇一九年に設立されてん。

―結構新しいですね。

そうそう、新しいから、まず認知度低かった。あとはコロナで授業全部オンラインやってんだけど、うちの学部海外の人多いから、みんな日本に來れへんかってんな。だから、異文化交流を促進しなあかんっていう課題があつて。これまで文化祭で出店したりとか、ここ（立守）まで来て説明会行ったりとか。そんなんしてたかな。

―なるほど。グローバル教養っていうんな海外の方がおられると思うんですけど、その中で自分の考え方や価値観はどう変わりましたか？

そうやな。うちは元々日本っていう視点が強かつてん。もちろんここ（立守）でも日本の歴史を学んでたし、めっちゃ好きやったからな。そやけど、グローバル教育学部は七割が国際生やし。授業に約十カ国、二十五名ぐらいの人がいるねん。例えば、戦争の話をした時に、日本は原爆の被害者で、私だけの視点で話したら、やっぱりその中には（日本の）被害者の人がいるわけで、日本に占領されてたり、アメリカの人もちろんいるから。だから、日本の視点だけで言うんじゃなくて、アメリカの人はこういうこと言いそうやな、韓国の人はこういうこと言いそうやな。って相手の立場を考えて、事前に勉強して発言することって大切やな。って気づいた。

―なるほど。じゃあ、大学生活でぶつかった壁とかっていうのはありますか？

ぶつかった壁な。多いな。

―いっぱいありますか。

多いな。大学は国際生の方が多いから、言語の壁はもちろんあつてんだけど、それこそ、私だけの視点で発言するのって、小さいコミュニケーション

やからこそ、指摘とか得ること多かつてんな。自分の価値観も変わったけど、私ってどういう発言しやすいんやろ、って考え直すのが苦労したかも。

＊

高一での留学の経験

―留学で一番心に残ってる出来事はなにかありますか？

んー、一番やんな、一つだけやんな。

―ぜひたくさん話してください（笑）。

じゃあ二つやな。一つがホストファミリーがベジタリアンがやったこと。私はベジタリアンに日本で会ったことなかったし、日本と違うところ見れるなと思った。そのホストファミリーと一年間過ごしたのはすごい印象的やったし、自分の価値観で決めたらあかんねんっていうのは一緒にいてて思ったかな。二つ目は、部活でチャリーディングしてたことかな。

―そうなんですか。なんでチャリーディングを選ばれたんですか？

調べたらアメリカってチャリーディングが有名で。一年しかないし、限られてるんやったら、可愛い服着て踊ったり、海外ドラマみたいな生活したいなと思って。部活入って、言語とか全然伝わらへんなと思ったけど、友達もできたし、ダンスしたことなかったんけど、新しいものに挑戦するのっていいなって気づいた経験です。

―いいですね。では一番辛かったことは何かありますか？

辛かったことか。あれやな、友達作りやったかも。最初の三ヶ月は全く何言ってるかわからへんかった。

行く前に英検二級取ってたんよ、自信持ちたかったから。けど、それが通じひんねやっていう。英語のスコア頑張っても、勉強では補えない

向こうの言葉とかがあったから、それが苦しかったかな。

*

高校生活を振り返って

―なるほど。今大学生活を送って、高校の時にあれしててよかったなとかっていうのありますか。

めっちゃあるで。なんやろ、うわ。いやもう十分楽しんでそうやさ（笑）。うちがしてたことが、それ当たり前ですよ、とか言われたら、いや、いっぱい聞かせてください（笑）。

やっぱり遊ぶことかな。うちは部活をすごい真剣にやってて、プレッシャーも感じちゃってた人やから、休みの日はちゃんと休んで遊ぶとか。あとは、学校のツールをもうちよつと使って勉強したらよかったんかなって。うちは国際交流好きやったから、あとは国際センターのイベントとか。他の学校の人から聞くとそういうの言わはるから、立守独自のいいツールを使う、もちろん国際系じゃなくても、起業するか。それって自分の中で新しい強みつけられるし。うちが就活してて思ったんは、そこから自分の性格って形成されていくんやなって。高校何してたんですか、って質問された時に、そういう武器持ってたらいいんやろうなって思う。

―なるほど。国際部のイベントに参加されてたって（事前のマッチング）シートに書いてたんですけど、それってどういうのに参加されたんですか。

コロナやったから主にオンラインやってんだけど、韓国とかアブダビの人と喋ったり、模擬国連もやってた。あとは付属校の立宇治とか立命館あるやか。その人らと関わるイベントにも参加してた。

―そうなんです、高校の時に頑張ってたのは、こういうイベント系に

いっぱい参加することですかね。

うん、部活以外はそうやね。

*

部活での挫折

―部活のこと聞かせてもらってもいいですか？挫折があったっておっしゃってたのでそれについて聞きたいです。

私、高一の時、留学に行つて、コロナの時期に帰ってきてんな、強制帰国。三月に帰ってきて、硬式テニス部にはずっと所属してて。やるんやったら、本気でしたかったから、大会のメンバーに選ばれるっていうのを目標にしてた。四十人いて、当時、全国レベルのすごい強い子が五人ぐらいいたかな。私は、その限られた枠に入るためには練習しなあかんと思って、めっちゃ頑張った。それで入れてん、そのメンバーに。全国大会にも行けてん、ほぼ連れてってもらってんけどな。

けど、その全国大会ではスタートメンバーに入れへんかった。それで、なんでなんやろ、って自分で考えたら、そのメンバーに選ばれることだけを考えて、全国大会でどんな人に勝ちたいのか、どんな学校に勝っていくのかを考えられてへんかった。その圧に押されて緊張しちゃって、それでめっちゃ負けまくってん。だから、それがきっかけで、目標を立てる時には、自分がどんな人になってたいのかなとか、その先を考えることを教えてもらったかな。

*

留学への決意と影響

―話が行き来しちゃうんですけど、国際系や世界に興味を持ったのはいつですか？

いつやろう。留学に行った時かな。

―留学が大きいんですね。

そう。アメリカって、インド出身の人とか、イギリスもいるし、フランスとか色々、アジアの人もいるやん。そんな人と会々と、やっぱ話す内容って政治とかも多かったから。そこからやったかな。

―高一で政治の話をしてたんですか？

授業がそうやってん。アメリカの歴史とか政治を学んでた時に、今何が起こってんのかなとか。当時トランプ大統領が就任した時やったかな。だから、めっちゃホストファミリーとも喋ってたんやけど、そっから日本の政治ってどうなんやろって思ったから、そこからかな。

―自分の人生に大きな影響を与えた人っていうのは、やっぱり海外の方ですかね。

そうやな、海外の人。ホストマザーとか、もちろん自分の両親もそうやかな。

―どういう感じで影響を受けたんですか？

ホストマザーはベジタリアンとかアメリカのこととか教えてくれた。世界事を自分事としてとったらいんだよっていうのを教えてくれた人。自分の両親は私がしたいって言ったことを応援してくれた人かな。

―高校生での一年の留学ってすごく勇気があるものだと思うんですけど、それを決意したきっかけってあるんですか。

いい質問。そうやなあ、私、中入生やってんだけど、中学校二年生の時に立守で海外の人を京都に案内するっていうイベントがあったんよ。先生もなしで五人グループで一人海外の留学生を案内する。全部自分でプランとか立てて、英語も喋らなあかん。私めっちゃ英語下手やってん。全然できひんかってんだけど、それでも優しく会話してくれはったから、それがきっかけで留学したいなと思ったかな。あとは、ニュージーラン

ド研修。あった？

―ありますあります。

やんな。それに行って、海外で生活したいなとか、文化をもっと見たいなって思ったから、そう決意した。

*

価値観が揺らいだ経験

―留学も含めてなんですけど、自分の価値観が揺らいだ経験とかっていうのはありますか？

そうやな、留学かな。あとはテニスかな。私、中一からやってて、高一の一年間留学でブランクあって、また最初からやってん、初心者スタート。中三までは副キャプテンやってて、自分の実力を上げることとチームをあげることに集中してた。けど、初めてもう一回初心者のクラスに入った時に、その子らは、始めたばかりかもしれないけど、テニスが好きとかうまくなりたいていう気持ちが強いなって気づいたんよ。

経験してた人には気づかへんかったことってあねん。だから、自分はその人らの思いを伝えることが、副キャプテンとしてできることやし、その子らを強くさせて、最後よかったなって思ってもらえるのが唯一できる責任かなと思った。それは、価値観変わったかな、誰も取りこぼさへんみたいなの、そういうの。

―もし高校生に戻れるとしたら、やり直したいこととかありますか？

めっちゃあるわ。うちめっちゃイベント好きやってん、体育祭とか文化祭。だから、もう一回したいかも。

―団アピ優勝みたいなの(マツチングシートに)書いてませんでしたか？
そう団アピ優勝した。中三の時に黒団やってんだけど、審査員の先生に受けそうな曲を入れた。もちろんペアダンスはマストな。ウルトラソウ

ルとかしたら優勝できた。

―私も中三の時、みんなでガチでやってたんですけど、二位やつて。

許せん（笑）。団アピ楽しいよな、三学年まとめるって難しいやんか。七十人ぐらいいおつてさ、そこら辺走り回る子もおるやん。そういう経験はある意味リーダーシップとかに繋がってるんのかも。文化祭も劇とか楽しかった。

―イベントは楽しんでおくべきですよ。

そう。今は青春した方がいい。大学の青春とはまたちゃうし。

―大学はサークルとかやってたんですか？

ちよつとだけ入ってたかな。サッカーマネージャー入った。一年だけ。

留学行く前かな。大学三年生の時に現地のとこ（オーストラリアの大学）に行くねん。ややこしいねんけど、大一、大二、大四はオーストラリアの教授が日本に来てくれて教えてくれて、大学三年生の時だけそっちの大学で勉強する。

―ホームステイですか？

ううん、寮に行った。個人寮みたいなの。

―じゃあ周り全員海外の人ですか？

せやな。オーストラリアは（アメリカより）もっと多かった。百力国以上集まってるっぽい。

*

最後に

―今大事にしていることとか、座右の銘じゃないですけど、そういうのってありますか？

座右の銘。（沈黙）イチロー選手がゆわはった、「不完全な自分」って言葉を自分の中で大切にしてる。うち野球好きやねんけど、そのインタ

ビューを見てて。

―うちは結構完璧主義なところがあって、すべて完璧にしたい。何をやるにあたっても、テニスをするにあたっても、全国大会行きたいとか。

大学も第一志望行きたいとかあって。けど、その分苦しいことの方が多かったん。なんでかなって考えた時に、私は自分の今の実力以上のところで挑戦する高い目標を掲げてる。けど、努力と苦勞を繰り返して、最終的に結果を掴み取ることが自分の中で変わってきてない価値観やし、多分ここから変わらへんねやろなって思ってる。不完全なスキルがあるっていうところは受け止めて、より良い自分に変えられるようにこれからもしてってほしいって自分は思ってるかな。

―すごいですね。私は逆に全部が大雑把すぎるんですよ。

大事やね。抜くとこ抜くとかさ。パーフェクトより、やったってことが大切っていうのが英語であんねんけど、「Done is better than perfect」っていう。だからそれってほんま大事。気抜かへんとメンタルブレイクしちゃうしな。

*

―じゃあ、最後に人生のアドバイスをお願いします。

―うちもまだ全然長いこと生きてへんからな。もちろん楽しむことって大事やと思うねんけど、その中で自分の軸ちゃんと持ったらいと思うてます。私は不完全な中で楽しむことが前提で、苦勞も繰り返すことがいいと思う人やから、陽香ちゃんなどの後悔しないような生き方してね。―します。頑張ります。

（写真を撮る）

―今日はありがとうございました。また機会があればよろしくお願いします。

またなんかあったらいつでも連絡してね。
—はい、ありがとうございます。

【感想】

佐々木さんのお話から、国際分野を志す私にとって、実際の学びや将来像を具体的に知ることができ、自分の進路への意欲がより明確になりました。部活動で「誰も取りこぼさない」ことを大切にする姿勢や、最後までやり切る責任感は、新チームを引っ張る立場となった今の自分と重なり、強く心に残りました。目標に真っ直ぐ努力し続ける生き方に憧れ、私も立守でたくさん経験し、自分の軸や価値観を見つけたいです。



右：語り手 佐々木春菜さん
左：聞き手 浅見陽香